

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第二部 経営労務と労使関係

I 経営者団体の動向

6 その他

4 財界指導者の交代

一九八六年五月には、経団連と日経連の会長が交代するはずであった。経団連は稲山嘉寛から斎藤英四郎へ、日経連は大槻文平から鈴木永二へとマスコミに名前も発表され(『日本経済新聞』一九八六年二月五日)、経団連は予定どおり、五月二十八日の第四七回定時総会でトップ交代をおこなった(『日本経済新聞』一九八六年五月二十九日)。前任者の「ミスター・カルテル」「我慢の哲学」稲山嘉寛と同じく、新日鉄出身である。

一方、日経連の大槻会長は、二月の定例記者会見で、「歳でもあるし、辞めてゆっくりしたい気もあったが、(任期がくる)来年までやることにした」と述べ、退任しない意思を表明した。その理由として、「賃金交渉のさなかに任期を残して辞めるのは不謹慎と考えた」と語った。賃上げ問題で財界内部からも生産性基準原理にたいする批判が出るなど、春闘にたいする財界の足並みが乱れそうなのを心配したためではないか、との観測もみられた(『日本経済新聞』一九八六年二月二一日)。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)